

税と言われて思いつくのは、中学生の私でも払っている最も身近な税金「消費税」だ。私の毎月の小遣いは千円。全額使って何かを買っても、支払う消費税は百円。年間で千二百円にしかならない。

しかし、学校でもらったパンフレットを見て驚いた。中学生一人には年間百万以上の税金が使われていた。これは教育費だけの金額である。もちろん両親は所得税など、支払う税金額は多いと思う。だが調べてみると、毎日通う通学路の整備や図書館、公園など教育以外にも税金が使われている場所が多い。支払い額より使用額の方が高いのではないかと思うくらいだ。

今年は特に、「税金」という言葉を聞く機会が多かった。新型コロナウイルスが流行して学校が休校になったので、テレビでニュースをよく見ていた。新型コロナウイルス対策のため、国からのマスク支給や、お店の休業補償金、全世界帯への給付金支給が税金で行われていることがわかった。もちろん、私の家も給付金を受け取った。休業や人手の減少で収入が減ってしまった人には、納税の猶予なども行われるらしい。

私の両親は会社員のため、生活に大きな変化はなかったが、祖母の家は観光果樹園を営んでいる。観光客が減ってしまったので困っていた。同じような農家を助けるために、市がふるさと納税の返礼品として、果物の注文を各農家にしてくれていると聞いた。祖母の家に支払われる果物の代金も、集められた税金で支払われていることになる。

今回、身近な税金について改めて考えるいい機会になった。税金を払うときは、商品と引き換えになる訳ではない。私も消費税がなかったらこれが買えたのに、と思う時がある。税金が高くなるのは嫌だ、払いたくないとは誰もが一度は思った事があるのではないだろうか。しかし、この払いたくない税金に助けられながら生活をしているのだとわかった。

税金の仕組みについてはまだわからないことが沢山ある。それでも、私が毎日楽しく学校生活を送り、安全に生活するためには税金はなくてはならないものであることはわかった。また、その税金は、両親や日本の働く人々みんながしっかり納めてくれているから使えているのだという事に感謝しなければならないと感じた。

いつか私も税金を納める立場になる。その時は自分のお金が減るという目の前の事だけでなく、そのお金が何に使われていくのか考えられる納税者になりたい。そして、税金の使われ方についてみんながもっと興味を持てば、日本はより生活しやすい国になっていくのではないかと思った。